

■北星学園大・札幌学院大合同チームが勝利。春季オープン戦開幕

北海道の大学アメリカンフットボールの、2024年シーズン到来を告げる春季オープン戦が6月9日、江別市の札幌学院大陸上競技場で始まった。開幕戦は北星学園大・札幌学院大合同チームと北海道科学大が対戦。アグレッシブな守備を見せた北星学園大・札幌学院大合同チームが19-0で快勝した。

北星学園大は昨秋の北海道学生選手権1部で最下位となり、2部優勝の東京農業大との入れ替え戦にも敗れて2部に降格した。札幌学院大は昨季の2部2位、北海道科学大は同3位。この日は、秋の2部リーグ戦を見据えてライバルたちの戦力を探り合う一戦となった。

北星学園大・札幌学院大合同チームの先制点は第3Q6分。北海道科学大のファンブルをリカバーした北星学園大のLB三浦健佑（4年）が、そのままエンドゾーンまで49ヤードを走ってTD。強風のためにトライのキックは失敗したが、6-0とした。三浦は前半に2回のインターセプトも決める大活躍だった。

第4Qも北星学園大勢が守備で躍動した。6分、北海道科学大が自陣深くから蹴ったパントにLB北田蓮（3年）が猛チャージし、風で押し戻されたボールをエンドゾーン内で押さえてTD。12-0とリードを広げた。その2分後にはDB中田大翔（4年）が44ヤードのインターセプトリターンTDを決め、トライのキックと合わせて19-0とした。中田も2インターセプトの活躍で、試合終盤には1年生DLの菅沼一成もインターセプトを決めた。

北海道科学大はRB竹内連也（2年）とRB浅木晶斗（3年）がFDを奪う力走を見せたが、パス攻撃が不調で無得点に終わった。浅木はインターセプトを奪うなど守備でも健闘し、1年生DLの桑原陸もパスカットやロスタックルで活躍した。

札幌学院大勢はQB仲上日陽（2年）が北星学園大のWR中田大翔へパスを通し、DB芝辻俊希（4年）が好タックルを見せた。

1TD、2インターセプトで合同チームを引っ張った北星学園大主将の三浦は「TDは初めて。去年秋からLBになり、キャッチングも磨いた」と振り返りながら「4人の新入生が加わったが、まだ人数が少ない。秋に向けて当たり

負けしない体作りをしたい」と決意した。一方、北海道科学大の佐藤彰彦監督は「1、2年生主体のチームなのでプレーの理解力が不足している。秋に向けて3カ月間、しっかり練習したい」と巻き返しを誓った。

春季オープン戦は次週の16日、札幌市円山競技場で第48回すずらんボウルとして北海学園大－釧路公立大（午前10時）、北海道大－東京大（午後1時）の2試合を行う。



1 TD、2 インターセプトで合同チームを引っ張った北星学園大のLB三浦健佑